



TRI STEREO
CHORUS



Softube

Rev. Oct 03, 2017

Softube ユーザーズマニュアル

© 2007–2017. Amp Room は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Softube は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Marshall、Super Lead、Plexi、1959 に関連するロゴ、及びすべての視覚と聴覚のリファレンスは、ライセンスを受けて使用している Marshall Amplification UK の商標です。Valley People Dyna-mite、Trident A-Range、Tonelux、Tilt への視覚と聴覚へのリファレンスは、PMI Audio から書面による許諾を得て使用されている登録商標です。Tonelux、Tilt logo、Valley People、Dyna-mite に関連するロゴ、Trident、A-Range、Triangle のゴロはライセンスに基づいて使用されている PMI Audio Group の商標です。Summit Audio Inc. は、Baltic Latvian Universal Electronics, LLC の登録商標です。すべての仕様は予告なく変更することがあります。無断複写、転載を禁じます。

その他の会社名、および本書に記載されている商品名は、各社の商標、及び登録商標です。他社製品に関する記載は、情報提供のみを目的としており、保証、推奨するものではありません。Softube は、これら製品のパフォーマンス、または使用に関して一切の責任を負いません。

Softube 製品は、特許 SE526523、SE525332、関連する特許/特許 WO06054943、US11/667360、US20040258250、EP1492081、EP1815459、JP2004183976 によって保護されています。

ユーザーへのソフトウェアへの権利は付属のソフトウェア使用許諾契約書 (EULA) に準拠しています。

謝辞とライセンスについて

‘zlib’ general purpose compression library version 1.2.8 の **zlib.h** インターフェイス、April 28th, 2013. Copyright © 1995–2013 Jean-loup Gailly と Mark Adler. このソフトウェアの一部は、copyright © 2006 **The FreeType Project** (www.freetype.org) です。すべての著作権を保有しています。**WonderGUI** は、Tord Jansson のライセンスに基づき使用されます。© 2004, 2006–2014 Glenn Randers-Pehrson による **Libpng** のバージョン 1.2.6, August 15, 2004 からバージョン 1.6.12, June 12, 2014 までは、同じ免責とライセンスに従って頒布されています。いくつかのコードは、copyright © 2008 **The NetBSD Foundation, Inc** が所有しています。**VST** は、Steinberg Media Technologies GmbH のソフトウェアであり、商標です。Mac OS X のヘッダーは、**Apple Public Source License** (APSL) の元でカバーされ、<http://www.publicsource.apple.com/apsl/> でご利用可能です。

免責事項

あらゆる努力は、このマニュアルに記載されている情報が正確であることを確認するために行われました。しかし、我々はミスをお犯している可能性があり、我々も人間であるということをご理解いただけますと幸いです。ミスを発見した場合、我々にお知らせください。マニュアルの後のバージョンで修正します。

サポート

Softube のウェブサイト上 (www.softube.com) では、よくある質問 (FAQ) や、様々な他のトピックへの答えを見るけることができますでしょう。

サポート的な質問は、<http://www.softube.com>, までご連絡ください。

我々は出来るだけ速やかにお答えします。Web: www.softube.com

E-mail: info@softube.com

Phone: +46 13 21 1623 (9 am – 5 pm CET)

もくじ

1	<i>Dytronics TriStereo Chorus</i>	5
	概要.....	6
	プリセットモード.....	7
	マニュアルモード.....	7
	インジケーター.....	8
	おわりに.....	10
	クレジット.....	10
2	ゼネラルセッティング	11
	メニュー.....	11
	キーコマンド.....	12



1 Dytronics Tri Stereo Chorus

UAD Dytronics Tri Stereo Chorusは、80年代初頭に発売されたラックマウントコーラス・エフェクトユニットをベースにしています。オリジナルは、DynaMy-PianoがモディファイしたRhodes pianoで使用するために設計されたTri Stereo Chorusは、その重厚なサウンドがプロギタリストにも注目され、人気を得ました。Dytronics Tri Stereo Chorusの豪華なサウンドは、Michael Landauの代表的なサウンドとなり、彼のツアーデビューアルバム“Tales from the Bulge”でも使用されています。Dytronicsはもちろん、Steve LukatherやDann HuffのようなLAのスタジオミュージシャンにも多く使用されました。Dytronics Chorusは、Chaka Khan、Sheena Easton、Julio Iglesias、Stevie Nick、Richard Marxなど多くのアーティストが制作した80年代のアルバムで使用されています。

概要

UAD Dytronics Tri Stereo Chorus (DTSC) は、コーラスの名機、Dytronics CS-5 Tri Stereo Chorus、そして Songbird TSC1380 と Dyno-My-Piano TSC618 をベースに作られています。“Tri” が示すように DTSC には、リッチなコーラスエフェクトを得るために レフト (L)、センター (C)、ライト (R) の3つのバケツリレー・ディレイチャンネルが搭載されています。

これらの3つのチャンネルのそれぞれのディレイは、LFOによってスウィープされ、その後ドライ信号とミックスし、コーラスエフェクトが作成されます。各ディレイチャンネルには、ディレイレスポンスとフィードバックのためのコントロールがそれぞれにあります。DTSC には、プリセットとマニュアルの2つのモードがあります。それぞれに独自の LFO 波形の出力があり、別々に、または並列に使用することができます。



コーラス波形L、C、R

コーラス
モード

主カ
メーター

エフェクト

コーラスエンハンスL、C、R

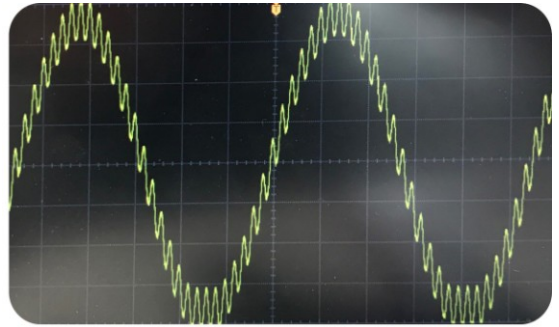
レート

LFOモード
マニュアル/プリセット

ボリューム

プリセットモード

プリセットモードは、サイン波ビブラートを加えた、ゆっくりとスウィープするサイン波LFOを持っています。この波形のレートと量の変化が少ないため、名称はプリセットと名付けられています。得られるサウンドは、70年代のストリングスで聴かれるようなアンサンブルスタイルのコーラスを連想させるようなエフェクトです。



マニュアルモード

マニュアルモードでLFOのレートと量は、レートノブ、ウェーブフォームノブで調整することができます。マニュアルLFOのレートは、0.03 Hz～7.45 Hzの間です。

ヒント：プリセットモードとマニュアルモードを同時に使用すると、重厚なコーラスバリエーションを作成することができます。

パラメーター

エフェクト - エフェクトのオン/オフを切り替えます。

コーラスモード - 出力モードをモノラル/ステレオを決定します。モノラルモードでは、レフト、センター、ライトのディレイチャンネルは、すべて左右の出力から聴こえます。ステレオモードでは、レフト、センターのディレイチャンネルが左の出力で、センターとライトのディレイチャンネルが右の出力から聴こえます。

LFOモード・プリセット - プリセットLFOのオン/オフを切り替えます。両方(プリセット/マニュアル)のLFOを同時に使用することができます。その場合、それらを組み合わせ出力がディレイチャンネルのスウィープに影響します。

LFOモード・マニュアル - マニュアルLFOのオン/オフを切り替えます。両方(プリセット/マニュアル)のLFOを同時に使用することができます。その場合、それらを組み合わせ出力がディレイチャンネルのスウィープに影響します。

ウェーブフォームL、C、R - LFOマニュアルモードでウェーブフォームノブは、マニュアルLFOが各チャンネルのディレイラインをスウィープする量を設定します。マニュアルLFOが使用されていない場合、これらのノブはチャンネルのディレイオフセットに影響します。

これは、オーディオがコーラスを通して供給されている場合、ノブを回すと瞬間的にわずかな“ベンド”が起こります。

コーラルエンハンスL、C、R - 選択したディレイチャンネルに周波数レスポンスを加えます。その場合、ディレイラインの音色が変化し、わずかに輪郭がはっきりします。

レート - マニュアルLFOのスピードを0.03 Hz ~ 7.45 Hzの間に設定することができます。

ボリウム - DTSCの全体的な出力ボリウムを-12 dB ~ +12 dBの間で設定します。

ヒント: Shiftを押しながらウェーブフォームノブをクリックすると3つのノブを同時に切り替えることができます。同じ方法をコーラルエンハンサーボタンでを使用して3つのディレイチャンネルすべてのコーラスを加えることができます。

インジケーター

出力メーター

全体的な出力レベルを表示します。



使用方法/ヒント&トリック

Dytronics Tri Stereo Chorusの使い方はとても簡単です。使用する際に秘密のトリックというものは無いと言えるでしょう。DTSCで行っていることはそれほどたくさんのものでなくても素晴らしいサウンドが得られます。

80年代のサウンドを再現するためにコーラルエンハンスなしでDTSCプリセットモードをステレオのギターに使用してください。



コーラスエンハンスを1つ、または複数のディレイチャンネルに使用することでコーラスがより多く聞こえるようになり“フランジ”効果が得られます。



マニュアルモードでウェーブフォームノブを使用し、コーラスの動きを中央、またはサイドに集中させるかどうかを決定してください。ここでは、“フランジ”エフェクトのようにコーラスが両サイドで深いスウィープをしている例を示しています。



DTSCプリセットモードと、非常に速いマニュアルLFOを組み合わせ、70年代のストリングマシンのようなアンサンブルコーラス・エフェクトを作成することができます。



LFOを一切使用しない(マニュアル、プリセットの両モードともにオフ)、1つまたは複数のディレイチャンネルにコーラルエンハンスをかけることで“フリーズした”フェイズEQセッティングを作成することも可能です。両方のLFOモードをオフにしたままウェーブフォームノブを使用して各ディレイラインのオフセットをスウィープさせ特定の周波数をエンハンスすることも可能です。



おわりに

いろいろ試すことは重要です。それには正解、不正解はありません。良いと感じたことは良いと信じてください。そして楽しんでください！

クレジット

Björn Rödseth – モデリング、Kim Larsson – モデリング、Kristofer Ulfves – プロダクトオーナー、ユーザーマニュアル、テスト、プリセット、Maxus Widarson – テスト、Igor Miná – グラフィックデザイン、フォト、Ulf Ekelöf – 3Dレンダリング

2 ゼネラルセッティング

Softubeのプラグインは、“見たそのまま”の製品です。素早く、効率的に操作できるよう直感的に少しの時間で使い方を覚えることができます。メニューのような Softubeのすべてのプラグインで同じような部分がありますが、それについてはこの章で説明します。プラグインの特定の詳細な情報に関しては、それぞれの章を参照してください。

メニュー

プラグインインターフェイスの下部には、いくつかのボタンと細い黒いラインがあります。ここでは例として、Chandler Limiter Zener Limiterプラグインを使用しますが、他のプラグインでも同様です。

About Box

バージョン情報を表示します。

Value Display

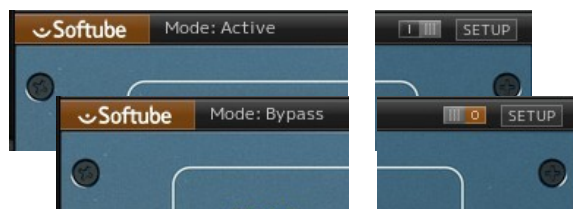
マウスがコントロールしているノブの値を表示します。

Enable

プラグインを有効にします。オフにするとバイパスします。

セットアップ

プラグイン全体の設定を変更するには、グローバル・オプションを使用します。



Enable

Enableスイッチがオンになっている場合 (i)、プラグインはアクティブになり、オーディオ処理がなされます。オフ (0) にするとバイパスされ、オーディオ処理されません。バイパス時のCPU消費率はかなり少なくなります。

“About”ボックス

バリューディスプレイ

Enable

セットアップ



セットアップ

セットアップウィンドウでは、プラグインの特定のインスタンスに影響を与える設定を行います。例えば、“Show Value Display”オプションの選択を解除した場合、プラグインは再びそのオプションを選択するまでシステム上のすべてのバリューディスプレイはオフになります。

WindowsとMacの間では、異なるオプションに変わっている場合があります。また異なるフォーマットやプラグインでも同様です。一般的なオプションは以下の通りです。:

Show Value Display: プラグインの下でパラメーターと値の表示を有効にします。

Reverse Mouse Wheel Direction: ノブの動きに合わせてマウスホイールの上下を変更することができます。
(Mac OS のみ)

変更を有効にするには、ホストアプリ(DAW)を再起動する必要があります。

もし、何かを台無しにしてマニュアルでこのオプションを設定する必要がある場合は、下記の場所にテキスト形式でそれらを見つけることができます。:

Mac OS: ~/Library/Application Support/ Softube

Windows: username\Application Data\

キーコマンド

プラグイン内のすべてのナンバーとラベルはクリックすることができます。これは簡単に希望する値を入力、設定することができます。ラベルの上にマウスを乗せると指差し型のポインターに変更されます。

マウスホイールの上下

ノブやスイッチのパラメーター変更方法を選択

キーボード

ファインアジャスト :

⌘ (Mac) 、または Ctrl (Win)を押しながら操作することで、パラメーターの値を微調整

デフォルトに戻す:

Altを押しながらノブ、フェーダーを操作

パラメーターのリンク

Shiftを押しながらノブやボタンを操作

Metal Amp Roomの2つのマイクやZener Limiterの入出力ボリュームなど、いくつかのパラメーターがリンクして操作可能です。両方のノブを同時に変更するには、Shiftを押しながらノブの1つを調整してください。

